

国文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国文学特論Ⅰ	『落窪物語』の探究	2	横溝 博	1学期	月	5	1
国文学特論Ⅱ	『落窪物語』の探究	2	横溝 博	2学期	月	5	3
国文学特論Ⅲ	〈接続する〉文芸学	2	中村 三春	集中(1学期)			5
国文学研究演習Ⅰ	日本文芸の考究とその 論述の方法	2	佐倉 由泰. 佐藤 伸宏. 横溝 博	1学期	火	4	6
国文学研究演習Ⅱ	日本文芸の考究とその 論述の方法	2	佐倉 由泰. 佐藤 伸宏. 横溝 博	2学期	火	4	7
日本文芸形成論研究演習Ⅰ	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	1学期	水	2	8
日本文芸形成論研究演習Ⅱ	明治前期の文学の研究	2	佐藤 伸宏	2学期	水	2	9
日本文芸形成論研究演習Ⅲ	日本文学史における和 歌	2	横溝 博	1学期	水	5	10
日本文芸形成論研究演習Ⅳ	日本文化史における歴 史文芸	2	佐倉 由泰	2学期	水	5	11
日本文芸形成論研究演習Ⅴ	説話文学の表現形成	2	佐倉 由泰	1学期	木	2	12
日本文芸形成論研究演習Ⅵ	説話文学の表現形成	2	佐倉 由泰	2学期	木	2	13
課題研究 (国文学)		4	佐藤 伸宏 佐倉 由泰 横溝 博	通年	火	5	

科目名：国文学特論 I / Japanese Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LM11501， 科目ナンバリング：LHS-LIT601J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『落窪物語』の探究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Ochikubo Monogatari" (The Tale of Ochikubo)

3. 授業の目的と概要：

『落窪物語』(巻一・二)を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と、本編となる【考察】をレジュメにまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察や論点をブラッシュアップしていくことで、『落窪物語』への理解を深め、読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『落窪物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (授業内容の説明、発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (『落窪物語』について、「継子物語」について)
3. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 巻一の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
12. 巻二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答

- (3) まとめ
- 13. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 14. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 15. 卷二の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（出席と質疑応答の積極性）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

手持ちの共通テキストとして岩波文庫 藤井貞和校注『落窪物語』を用いるので購入すること。また文庫本では角川ソフィア文庫 室城秀之訳注『新版 落窪物語 上下』があり、Kindle 版でも購入可能。その他、参考文献は授業内で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

『落窪物語』そのものについて、自分なりに興味を持って読み進める。複数の注釈テキストを読み比べる。写本の影印も見たい。また他の継子物語や現代における『落窪物語』の受容（ライトノベル、コミックなども含む）についても目配りしたい。毎回の輪読箇所が決まっている上、発表資料（レジュメ）が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲の本文と資料を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：

本演習は、第 6 セメスターも連続して履修すること。物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。

科目名：国文学特論Ⅱ／ Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LM21501， 科目ナンバリング：LHS-LIT602J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『落窪物語』の探究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "Ochikubo Monogatari" (The Tale of Ochikubo)

3. 授業の目的と概要：

『落窪物語』(巻三・四)を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と、本編となる【考察】をレジュメにまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、考察や論点をブラッシュアップしていくことで、『落窪物語』への理解を深め、読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『落窪物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 貴族社会の構造や有職故実、時代の風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
2. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
3. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 巻三の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 巻四の輪読

- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 12. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 13. 巻四の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 14. 自由発表
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
- 15. 自由発表
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（出席と質疑応答の積極性）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

手持ちの共通テキストとして岩波文庫 藤井貞和校注『落窪物語』を用いるので購入すること。また文庫本では角川ソフィア文庫 室城秀之訳注『新版 落窪物語 上下』があり、Kindle 版でも購入可能。その他、参考文献は授業内で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

『落窪物語』そのものについて、自分なりに興味を持って読み進める。複数の注釈テキストを読み比べる。写本の影印も見たい。また他の継子物語や現代における『落窪物語』の受容（現代語訳、ライトノベル、コミックなども含む）についても目配りしたい。毎回の輪読箇所が決まっている上、発表資料（レジュメ）が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲の本文と資料を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：

本演習は、第 5 セメスターから連続して履修すること。物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。

科目名：国文学特論Ⅲ／ Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：中村 三春（非常勤講師）

講義コード：LM98801、科目ナンバリング：LHS-LIT603J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

（接続する）文芸学

2. Course Title（授業題目）：

Literary Theory for Connecting

3. 授業の目的と概要：

文芸テキストは係争する主体の葛藤の場であり、物語の語りは生成すると同時に媒介する。虚構・主体・語りの観点から（接続する）文芸学のあり方を概説し、原民喜から小川洋子に至る現代の文芸を例に採ってその諸様相を検証する。

4. 学習の到達目標：

現代文芸研究の方法論と、現代文芸の作品に関する基礎知識を習得し、授業内容について感想レポートを執筆するとともに、任意の文芸テキストについて水準の高い最終レポートを作成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

・授業はプリントを配付し、パワーポイントのスライドを利用した講義形式で進める。

序説（接続する）文芸学の理論（第1回～第3回）

（虚構の理論と根元的虚構論—係争中の主体—接続と語りの理論）

本論

- 1 原民喜と表象の可能性と不可能性 「鎮魂歌」など（第4回～第5回）
- 2 森敦の〈わたし〉と小説の構造 『われ逝くものごとく』など（第6回～第7回）
- 3 谷川俊太郎と言葉の沈黙と構成 『六十二のソネット』『定義』など（第8回～第9回）
- 4 村上春樹と〈接続する〉物語 『1Q84』『騎士団長殺し』など（第10回～第12回）
- 5 小川洋子と監禁の終わるとき 『猫を抱いて象と泳ぐ』『琥珀のまたたき』など（第13回～第15回）

6. 成績評価方法：

感想レポート（30%）および最終レポート（70%）によって評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリント資料（テキスト、スライド）を配付する。

参考書は以下の外、教室で紹介する。

中村三春『フィクションの機構』（1994、ひつじ書房）

中村三春『フィクションの機構2』（2015、ひつじ書房）

中村三春『係争中の主体 漱石・太宰・賢治』（2006、翰林書房）

中村三春『花のフラクタル 20世紀日本前衛小説研究』（2012、翰林書房）

8. 授業時間外学習：

【予習】授業で取り上げる作家の作品を読んでおくこと。

【復習】作品を授業内容に照らして読み直し、理解を完全なものとするとともに、質問を感想レポートとして執筆し提出すること。

9. その他：

ホームページ

<http://projectm.s500.xrea.com/>

Twitter

@miharu_office

科目名：国文学研究演習Ⅰ／ Japanese Literature (Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 4講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰, 佐藤 伸宏, 横溝 博 (教授 他)

講義コード：LM12401， 科目ナンバリング：LHS-LIT604J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本文芸の考究とその論述の方法

2. Course Title (授業題目)：

Research of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：

論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を高めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

論述の説得力を高めるためのスキルを身につける。また質疑応答に際してのディベートの力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ガイダンス (第1回)

考察発表とそれにもとづく意見交換 (第2回以後の毎回)

6. 成績評価方法：

授業における発表 (60%)・授業への参加 (40%)

7. 教科書および参考書：

特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを用意すること。

8. 授業時間外学習：

あらかじめ配布された資料を熟読し、質問事項を用意しておくこと。

9. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：国文学研究演習Ⅱ／ Japanese Literature (Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰, 佐藤 伸宏, 横溝 博 (教授 他)

講義コード：LM22401, 科目ナンバリング：LHS-LIT605J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本文芸の考究とその論述の方法

2. Course Title (授業題目)：

Research of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：

論文作成の実践を通して、文学を思考し論ずる上での高度で専門的な問題発見力・分析力・構想力を高めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

論述の説得力を高めるためのスキルを身につける。また質疑応答に際してのディベートの力を養う。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

考察発表とそれにもとづく意見交換 (第1回以後の毎回)

6. 成績評価方法：

授業における発表 (60%)・授業への参加 (40%)

7. 教科書および参考書：

特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを用意すること。

8. 授業時間外学習：

あらかじめ配布された資料を熟読し、質問事項を用意しておくこと。

9. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本文芸形成論研究演習 I / Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LM13201， 科目ナンバリング：LHS-LIT606J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

明治前期の文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on the Japanese literature of the Meiji era

3. 授業の目的と概要：

日本近代文学の成立期である明治時代は、西洋文学の影響を受けながら、新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その明治時代の、とくに前半期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本学期では、主として明治 20 年代の小説等を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 明治前期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：明治という時代
- 2) 明治文学史
- 3) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 4) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 5) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 6) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 7) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 8) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 9) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 10) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 11) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 12) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 13) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 14) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 15) 前期のまとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく

9. その他：

本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅱ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 伸宏（教授）

講義コード：LM23201， 科目ナンバリング：LHS-LIT607J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

明治前期の文学の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on the Japanese literature of the Meiji era

3. 授業の目的と概要：

日本近代文学の成立期である明治時代は、西洋文学の影響を受けながら、新たな文学の領域や可能性が追求された時期であった。その明治時代の、とくに前半期の文学を取り上げ、考察を加える。受講者は各自担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて報告する。口頭発表と質疑応答をとおして各作品の精緻な読解を試みる。本学期では、主として明治30年代の小説等を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 明治前期の文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：明治30年代という時代
- 2) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 3) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 4) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 5) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 6) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 7) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 8) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 9) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 10) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 11) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 12) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 13) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 14) 担当者による口頭発表と質疑応答
- 15) 第2学期のまとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておく

9. その他：

本演習は第1学期から連続して履修すること。

科目名：日本文学形成論研究演習Ⅲ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：横溝 博（准教授）

講義コード：LM13501， 科目ナンバリング：LHS-LIT608J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本文学史における和歌

2. Course Title (授業題目)：

Waka Poems in Japanese Literary History

3. 授業の目的と概要：

日本文学・日本文化において和歌とはどのような存在だったのか——。和歌そのものの鑑賞というのではなく、和歌なるものが、日本文学・文化を形成する上で果たす（果たしてきた）役割や機能、さらには日本における「和歌」という文化そのものについて考えるのが目的である。勅撰集、私家集、定数歌、歌論歌学、打聞、和歌説話、歌人、歌枕、等々のジャンルをめぐる議論や、物語における和歌、日本近代における和歌、現代人と和歌、儀礼の和歌、宗教と和歌、美術と和歌、和歌とジェンダー、等々、社会文化史的な視点での議論まで、広くテーマを立てることで、和歌について様々な角度から考究し、和歌というものへの理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

資料の読解力と論述の説得力を高めるためのスキルを身につけ、和歌というテーマについて高度な教養を蓄える。また質疑応答に際してのディベートの力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。次回以降の予定の確認と発表担当者の決定
2. 研究発表と質疑応答。
3. 研究発表と質疑応答。
4. 研究発表と質疑応答。
5. 研究発表と質疑応答。
6. 研究発表と質疑応答。
7. 研究発表と質疑応答。
8. 研究発表と質疑応答。
9. 研究発表と質疑応答。
10. 研究発表と質疑応答。
11. 研究発表と質疑応答。
12. 研究発表と質疑応答。
13. 研究発表と質疑応答。
14. 研究発表と質疑応答。
15. 研究発表と質疑応答。

6. 成績評価方法：

授業における発表（60%）・授業への参加（出席・質疑応答）（40%）

7. 教科書および参考書：

各回で考察対象とする作品のテキスト、参考文献を持参すること。

8. 授業時間外学習：

予め配布された資料（文学テキスト、発表レジュメ）を熟読し、先行研究にもあたるなどして、質問事項を用意しておくこと。

9. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅳ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅴ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM23501， 科目ナンバリング：LHS-LIT609J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本文化史における歴史文芸

2. Course Title (授業題目)：

Reserch on the Japanese Literature which described History

3. 授業の目的と概要：

史実を制約的な創造基盤として成立した日本の歴史文芸の各作品について、特質と表現史上、文化史上の意味を考究する。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

歴史文芸を考察するにあたって（第1回～第2回）

考察発表とそれにもとづく意見交換（第3回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

各回で取り上げる文学作品の本文を用意して出席すること。

8. 授業時間外学習：

各回で取り上げる文学作品等をあらかじめよく読み、考えたい問題、問いたいことがらを意識して出席すること。

9. その他：

この授業はⅢ・Ⅳを連続して履修すること。

科目名：日本文芸形成論研究演習Ⅴ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅴ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM14201， 科目ナンバリング：LHS-LIT610J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

説話文学の表現形成

2. Course Title (授業題目)：

Research on Setsuwa

3. 授業の目的と概要：

説話文学の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

説話文学についての解説（第1回～第5回）

考察発表とそれにもとづく意見交換（第6回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない。

参考書：授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本演習のⅥも連続して履修すること。

科目名：日本文芸形成論研究演習VI／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM24201， 科目ナンバリング：LHS-LIT611J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

説話文学の表現形成

2. Course Title (授業題目)：

Research on Setsuwa

3. 授業の目的と概要：

説話文学の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

考察発表とそれにもとづく意見交換（第1回以後の毎回）

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕と、授業への参加〔40%〕により評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定しない。

参考書：授業の中で随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：

本演習のVから連続して履修すること。